



天然記念物及び名勝

15. 見附島 みつけじま

■指定年月日 平成29年1月24日(2017)

■指定面積 1,047㎡

■所在地 宝立町鵜飼1-45

■所有者 すみよし住吉神社

見附島は珠洲市南寄り、見附海岸の南東沖合約180mにある小島。形状は周囲が切り立った断崖になっており、北西方向に長軸をもち頂上部はあまり起伏がなく平坦である。標高は約29m、長径約160m、短径約50m、周囲約350mの菱形をしている。島の地層は能登半島北東域に散在する新第三紀中新世後期の泥岩～珪藻泥岩層（飯塚珪藻泥岩層）からなる堆積構造を持つ。島の形成は、長年の風化・浸食作用によってこの特異な形状を持つようになったと考えられる。

島の頂上には祠があり、昭和30年代頃までは東側壁面から上ることができた。頂上部の植生は、タブノキ、モチノキ、ヤブツバキなどの照葉樹が生え

常緑広葉樹が優先するイノダブノキ群集に属する照葉樹林と思われる。このことから見附島は、珠洲市内浦沿岸の地形形成過程や植生を知るうえで重要かつ貴重な学術的資料である。

名称の由来は、弘法大師が佐渡より渡ってきた際に、この島を目にして上陸したため「見附島」と呼ぶようになったという伝承がある。また、形状が軍艦に似ることから「軍艦島」とも別称される。この付近は月の名所でも知られており、「見月島」と記す文献もある。頂上部は四季を通じて深緑で覆われ、海上にそびえ立つ迫力ある光景は、見る者を魅了する、奥能登の代表的な景勝地でもある。